

最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）



百貨店・スーパー等の個人消費は、百貨店は8月以降、スーパーは引き続き、順調に推移している。

また、大阪府を訪れたインバウンドは、2025年1～9月の累計で過去最高を記録した前年同期比を更新した。インタビューした大阪市のいわゆるミナミエリア、浪速区にある通天閣観光株式会社及び中央区の道頓堀ホテルの代表者によると、7～9月期において大阪・関西万博の押し上げ効果で、売上げが増加するなど、景況は良好である。万博閉幕後もインバウンドは増加傾向にあると考えており、それぞれの強みを活かした戦略をたて、収益確保を目指していくこととしている。

2025年7～9月期の百貨店とスーパーの合計売上高（全店ベース）は、前年同期と比べ増加している。

百貨店の売上高（全店ベース）は、2021年10月以降、前年同月を上回り、好調が続いていたものが、今年の3月以降、減少に転じたものの、8月以降、再び増加に転じた。

スーパーの売上高（全店ベース）は、2022年10月以降、前年同月を上回っている。

乗用車新車販売台数は、2025年1月以降、前年同月を上回っていたが、7月以降、減少に転じた。

コンビニエンスストアの販売額は、2024年11月以降増減を繰り返していたが、2025年3月以降、前年同月を上回っている。

家電大型専門店の販売額は、7月に一時前年同月を下回ったが、2024年12月以降、上回っている。

ドラッグストアの販売額は、2021年4月以降、56か月連続して前年同月を上回っている。

ホームセンターの販売額は、2024年11月以降は、前年同月を上回っていたが、2025年8月以降、減少に転じている。

用品が前年同月比でマイナスであったものの、身の回り品は7.5%増、飲食料品は2.8%増、その他の商品は5.7%増、食堂・喫茶は13.6%増となった。

8月 〈平年差〉 平均気温+1.8℃、降水量-52%

百貨店における全店ベースの売上高は、前年同月比で8.9%の増加となった。商品別では、家具・家電・家庭用品を除く全てのカテゴリーが前年同月の販売額を上回った。衣料品は10.4%増、身の回り品は1.0%増、飲食料品は6.4%増、その他の商品は18.0%増、食堂・喫茶は5.7%増と好調であった。猛暑による影響はあったものの、大阪・関西万博の好影響で伸びた、国内及びインバウンドの消費がともに伸びたことによる。

スーパーにおける全店ベースの売上高は、前年同月比で1.0%の増加となった。商品別では、飲食料品、家具・家電・家庭用品が前年同月比でマイナスであったものの、衣料品は1.3%増、身の回り品は3.7%増、その他の商品は8.0%増、食堂・喫茶は8.8%増となった。

9月 〈平年差〉 平均気温+2.9℃、降水量+3%

百貨店における全店ベースの売上高は、前年同月比で8.3%の増加となった。商品別では、家具・家電・家庭用品及び食堂・喫茶を除く全てのカテゴリーが前年同月の販売額を上回った。衣料品は2.7%増、身の回り品は2.9%増、飲食料品は10.0%増、その他の商品は19.5%増と好調であった。8月と同様に猛暑による影響はあったものの、大阪・関西万博の好影響で伸びた、国内及びインバウンドの消費がともに伸びたことによる。

スーパーにおける全店ベースの売上高は、前年同月比で3.3%の増加となった。商品別では、家具・家電・家庭用品を除く全てのカテゴリーが前年同月の販売額を上回った。衣料品は1.7%増、身の回り品は2.9%増、飲食料品は2.8%増、その他の商品は7.3%増、食堂・喫茶は2.4%増となった。

以下、個別にヒアリングを行った百貨店A社については、9月期、通天閣及び道頓堀ホテルについては、7～9月期における景況感をみていく。

百貨店・スーパーの月別概況



7月 〈平年差〉 平均気温+2.5℃、降水量-41%

百貨店における全店ベースの売上高は、前年同月比で3.7%の減少となった。商品別では、飲食料品及び貴金属、宝石などが含まれるその他の商品を除く全てのカテゴリーが前年同月の販売額を下回った。飲食料品は0.5%増、その他の商品は2.7%増となったが、衣料品は5.7%減、身の回り品は14.7%減、家具・家電・家庭用品は1.9%減、食堂・喫茶は3.3%減となった。前年同月が非常に好調であったこと、猛暑の影響によるものと考えられる。

スーパーにおける全店ベースの売上高は、前年同月比で2.8%の増加となった。商品別では、衣料品、家具・家電・家庭

百貨店 A 社

9月の店頭売上高は、改装に伴う売場閉鎖のマイナス影響により、前年実績をやや下回った。国内売上高は前年実績を下回ったものの、インバウンド売上高は海外VIP顧客が約2割増と牽引し、前年に近い水準に回復した。

婦人服・服飾雑貨：売上高は、前年同月比で減少した。前半は、真夏日や猛暑が続いた影響で、秋物ファッションが苦戦した。中旬以降は、婦人服を中心に秋物の動きがみられた。

紳士服：売上高は、前年同月比で僅かに減少した。婦人服・服

飾雑貨同様、残暑の影響で秋物ファッションが苦戦した。

子ども服:売上高は、前年同月比で増加した。前月に引き続き好調なインバウンド売上が貢献した。

化粧品:売上高は、前年同月比で増加した。コロナ禍以降、需要が高まっているフレグランスが国内の顧客に好調である。

ラグジュアリー:売上高は、前年同月比で増加した。改装によって仮設売場で営業しているが、徐々に認知度が高まり、インバウンドに加え、国内富裕層による宝飾品や時計などの売上増が牽引した。

食料品:売上高は、前年実績が高かったこともあり、前年同月を下回った。

推移している。売上げの構成は、入場券収入が約5割、各種アトラクションの利用収入が約2割、お土産販売が約3割で、売上げも安定して推移している。

大阪・関西万博の影響と今後:万博によって大阪を訪れる国内来場者が増えるなど、好影響はあった。閉幕後の入場者予想は、大阪府外からが減る一方で、インバウンドは、関西国際空港からのアクセスの良さや海外における通天閣タワーの知名度の高さなどを背景に、今後も増えるの見込んでおり、影響を大きく受けることはないと考えている。今後の発展のため、インバウンドの集客を意識している。

通天閣

好調な入場者数:通天閣の入場者は、コロナ禍の2020年度から2022年度を除く2007年度以降、連続して100万人を突破しており、2023年度は137万人を超えて過去最高となった。2024年度は前年を下回る約133万人であったが、2025年の7月と8月は前年同月を上回る水準で推移している。日本政府観光局が公表する「訪日外客数」で、2025年は、9月までの累計で、最速で3,000万人を突破し、関西国際空港の離発着便増便などの効果もあって、インバウンドの利用も多く、好調に推移している。

入場者の属性:2024年度の入場者(132.6万人)に占めるインバウンドの割合は23.9%であった。インバウンドのうち、中国が11.1%、韓国が6.4%、欧米が6.0%、タイが0.5%である。家族連れが多く、入場券種(15歳以上の大人、子ども)でみると、約75%が大人、約25%が子どもである。また、入場者の内訳は、約78%が展望台の入場者、22%がスライダー等アトラクションの入場者で、この内訳は月によって大きな変動なく

道頓堀ホテル

好調な宿泊者数:売上げの5割強が宿泊、5割弱が宴会利用である。昨今は景気に左右されて宴会利用が微減であるものの、リピーター利用が根強い。全103室の稼働率は、平均約95%と常に満室状態である。7~9月期の売上げをみると、前年同月比約15%増であった。9月中旬は客数が減ったが、大阪・関西万博開催の影響で引き上げた価格の変動がなかったため増収であった。宿泊者の97%はインバウンド、3%が国内である。インバウンドの宿泊者の国籍は、欧米人が多い。10月期は季節要因もあって売上げは過去最高額になる見通しである。

大阪・関西万博の影響と今後:年々増加傾向にあるインバウンドにターゲットを置いていることもあり、万博による業績への好影響はあった。万博閉幕後も、食事や観光施設に近接し京都や奈良にも近いこともありインバウンドは増えると考えている。今後もホテルの発展だけでなく、道頓堀の活性化、魅力の向上に寄与していきたいとしている。

(山中 忠)

大阪府の消費に関する経済指標

※pは速報値を表す (単位: 百万円、台、%)

		2025年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店 計	販売額 (全店ベース)	161,186	166,335	169,288	176,259	171,375	p 168,701
	(前年同月比、全店ベース)	▲ 1.6	▲ 3.7	▲ 2.2	▲ 0.9	5.0	p 6.0
	(前年同月比、既存店ベース)	▲ 1.5	▲ 3.8	▲ 1.9	▲ 0.6	5.6	p 6.5
うち百貨店	販売額	85,397	89,044	91,598	96,146	89,269	p 92,879
	(前年同月比、全店ベース)	▲ 5.9	▲ 9.3	▲ 6.1	▲ 3.7	8.9	p 8.3
	(前年同月比、既存店ベース)	▲ 5.9	▲ 9.3	▲ 6.1	▲ 3.7	8.9	p 8.3
うちスーパー	販売額	75,789	77,291	77,690	80,113	82,106	p 75,822
	(前年同月比、全店ベース)	3.8	3.6	2.7	2.8	1.0	p 3.3
	(前年同月比、既存店ベース)	4.3	3.8	3.7	3.6	2.1	p 4.4
コンビニエンスストア 販売額及び店舗増減	販売額 (全店ベース)	79,539	83,283	82,570	87,612	86,382	p 82,627
	(前年同月比、全店販売額)	3.4	6.4	6.3	5.5	5.1	p 6.6
	店舗数 (前年同月比)	▲ 0.3	▲ 0.2	0.1	0.0	0.2	p 0.3
乗用車新車販売	台数	15,481	14,522	17,146	17,345	13,788	19,044
	(前年同月比)	7.5	2.0	2.1	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 0.4
家電大型専門店販売額	(前年同月比)	2.8	7.6	10.2	▲ 0.8	6.1	p 12.6
ドラッグストア販売額	(前年同月比)	15.4	15.1	12.1	11.3	9.8	p 14.2
ホームセンター販売額	(前年同月比)	0.1	3.5	3.1	0.5	▲ 6.0	p ▲ 1.4